

ハラスメント——。現代社会で働く人にとって、
今、一番気を付けるべき点と言っても過言で
はない。対応を誤って職を失った著名人は枚挙に暇
が無い。厚生労働省等がハラスメント対策のガイド
ラインを作成しているが、その具体的な線引きは世
代や性別等によって異なるケースもまま有る。永田
町や霞が関界限では未だにその距離感を掴めずに仕
事をしている人は少なくない。

厚生省内で密かに噂されているのが、将来を期待
されている或る医系技官の振る舞いだ。優秀な政策
マンとして知られているが、男性職員と女性職員へ
の扱いが異なる事で知られる。医系技官の若手は、
「部下の女性の誕生日を何故か把握していて、その
日にプレゼントを渡している。一方で、男性職員は
殆ど貰った事が無い」と苦笑する。性的な言動は無
いというが、この若手は「気持ち悪がっている女性
がいるのは確かな様だ。仕事面では非の打ち所が無
いので、少し勿体無い」と付け加える。

事務系キャリアで有名なのは、エリート街道をひ
た走る、或る幹部の行状だ。勉強会と称して中堅・



厚生省

人事 ウォッチング

若手の女性職員等を含む飲み会をよく開く。実際に
政策論的な議論になる事も多いとされ、参加した事
が有る職員は、「割と真面目な会合だ」と明かす。出

席は強制されている訳ではないが、女性参加者の1
人は「幹部なので誘われれば断りにくい」と声を潜
める。只、問題はその後だ。会合は日付が変わって
も続くのが当たり前で、最終的にはタクシーで帰宅
する事になるという。或る参加者は「タクシーで送
ってもらうのは良いが、自宅前まで着けようとすゝ

る。自宅が知られるのは嫌なので、対応に困る事が
有った」と漏らす。

これらの事例に於いて、ハラスメントと言えるか
どうかの判断は人によって異なるかも知れない。当
人は善意のつもりでも、プレゼントをもらったり、
タクシーで送られたりした人の受け取りは様々で、
ハラスメントと疑う人もいるかも知れない。他方
完全に「ハラスメント」と認定された事例が永田町
で最近起こった。ゝ

第106回 厚労界限のハラスメントを「他山の石」に

対策を進める側がハラスメントで左遷

或る厚労族議員の男性秘書は、飲み会で参加した
女性に抱き着く等の行為に及んだという。被害を受
けた女性側からの抗議を受け、この「蛮行」は雇い主
である国会議員の耳にも入った。国会議員の逆鱗に
触れ、この男性秘書は暫く謹慎していた。

別の事務所の秘書は、「この男性秘書は元々パワ
ハラ気質で、彼の下に就いた秘書をよく潰す事で有
名だった。一方で、事務所に出入りする女性とは距

離が近く、親しげに話す場面がよく目撃されてい
た」と明かす。大手紙記者は「ハラスメント対策を進
める側の厚労畑の国会議員に仕えながら、秘書自ら
ハラスメントをしていた。国会議員の指導力も問わ
れ兼ねず、情けない限りだ」と呆れ顔だ。

ハラスメントかどうかの線引きが難しい場面は確
かに有る。特に飲食を伴う場面は危険が付きものだ。
厚生省でも左遷された職員は数知れず。こうした事
例を「他山の石」としつつ、ハラスメント撲滅が求め
られる。